

世界のIHIから

ロンドンの地下鉄は、ロンドン市内の移動に欠かせない存在であり、私も通勤に、買い物にと日常的に利用していました。ただ、日本では経験したことのない出来事に何度も遭遇しました。

ある日、いつものように乗車していると、「次の White City 駅を終点にします。」と突然のアナウンス。「まだ途中では…」と驚く私をよそに、乗客は何事も無く次の駅で下車し、文句も言わず後続の列車を待っていました。

またある日の朝の通勤でのこと、いつも下車する Bank 駅の2駅前頃に、「Bank 駅は混雑しているため安全上通過します。」とのアナウンス。「通過？」と思っていると本当に通過しました。しかし、ホーム上は何も混雑しておらず…

更に極めつけは、帰宅のために乗車していると、いつものように突然のアナウンス、「行き先を Ealing Broadway 駅から West Ruislip 駅に変更します。」私の最寄り駅を通過しない支線に入るとのこと。「えっ」と思う私をよそに、皆さん支線の分かれる駅で何事も無く乗換えをします。

赴任当初は、「なぜこんなことが起こるのだろうか?」と思ったのですが、これらの出来事を何十回も経験していると、このような突然の変更にも対応した電車の運行管理を行えるのは、英国の列車運行管理技術が素晴らしいのではと思いはじめようになったのでした。とは言え、日本の地下鉄に慣れた方々には、非常に厄介かもしれません。ロンドンへ行かれて地下鉄を利用される際には列車内のアナウンスにご注意ください。

(技術開発本部管理部 上野 俊一朗)



Fly & Drive…目的地の近くまで飛行機で長距離移動し、現地ではレンタカーを利用する旅のスタイルで、国土の広いアメリカでは一般的です。

日本ではほとんど利用したことがないレンタカー、しかも慣れない左ハンドル…当初は失敗ばかりでした。

まず、レンタカーを借り出す際、ときに「アップグレード」と称し、指定したサイズよりも大きい車が出されることがあります。セダンであればまだいいのですが、私の場合、なぜか Mustang (マスタング) が出てくるのが何回もありました。マスタングは2ドアなので運転席のスペースが非常に広く、アクセルを踏もうとすれば足が攣りそうになるし、シートベルトを装着すると首が絞まりそうになるのです。最初にマスタングが出てきたときには、そんなことは露知らずに借り出しましたが、2回目からは必ず替えてもらうようにしました。

運転に際してもいろいろと失敗はありました。まずはウインカー。日本車とはウインカーとワイパーのレバーが左右逆なので、曲がろうとしてウインカーを出したつもりなのに、晴天の下、ワイパーが動きます。そしてトランクオープナー。車内にあるはずのオープナーを探すのが一苦勞で、ようやく見つけたレバーを引っ張ってみると、ボンネットが開いたり…。同じくガソリンタンクの開閉にも手間取りました。運転席周りを散々探して見つけられず、近くでガソリンを入れている他の人に一緒に探してもらったことも何回もあります。…そしてその挙句、手で開けるタイプだったりしたこともありました。

こんな失敗を繰り返し、私も最後にはほぼ問題なく Fly & Drive を実践できるようになりました。

でも、帰国して久しぶりに日本車を運転した時に、道を曲がろうとしてワイパーが動いたのは言うまでもありません。

(技術開発本部知的財産部 永山 真実子)



IHI が手がけたインドの LNG 受入基地は、Petronet LNG 社の Dahej (既設 2004 ~、増設 2009 ~) / Kochi (建設中) の 2 か所があります。そのうち Dahej はインド初の LNG 受入基地であり、LNG 取扱量の多さなど特徴の多いところですが、私は Dahej Expansion (能力を倍増する増設工事) の試運転のため、建設完了前からトラブルがすべて解決するまでの 10 か月を、現地で電撃蚊取りラケット (ご興味のある方は検索してみてください) を握り締めて過ごしました。現地入りしたその日に帰りたいと思った現場でしたが、感じたこと・考えたことのうちの一つをご紹介します。

ひとりで現場に向かい、お客さま・パートナーに説明し、こちらの計画どおりに作業を実施する機会が多々ありました。その際、誰のどんな質問に対しても、分からない・知らないと答えてはならないと学びました。相手方は Manager から Worker まで様々な立場それぞれの役目がはっきりしていますが、私は新入社員であろうと肩書は試運転エキスパートを意味する Commissioning Engineer であり、指示されたとおりに作業する Technician や Worker ではありません。エンジニアとして期待される返答ができなかったときの相手の表情は、それは冷たいものです。このままでは相手にされなくなると怯えたおかげで、技術的なことに関しては何でも説明できるよう、上位者に確認を取らずにある程度の判断を現場で下せるように、努力し続けることができました。お客さまのベテランオペレータ・パートナー社のエンジニア達が気付かなかったミスを防げたこともあります。

また、お客さまを含む人々とのやりとりで常に感じたことは、いかに IHI が信頼されているか・いかに日本人が好感をもたれているかということです。これは既設工事・本工事で苦勞された先輩方の努力によるものにも他なりません。その印象を崩さないよう、IHI ひいては日本人の看板を背負っていることを肝に銘じるようになりました。

(プラントセクター基本設計部 吉富 泰助)



INDIA

アルジェリア Sonatorach 社 GP1.Z Phase3 の現場に私は 2009 年 8 月 ~ 2010 年 5 月末まで電気担当として滞在しました。現地の人たちは、お客さん、現地エンジニアみな陽気で仲良く、相手が誰だろうと道で会うと「アッサラーム・アライクム」(ムスリムの挨拶)、「ボンジュール! サヴァ? サヴァ? サヴァ! エヴ?」(フランス語で、おはよう! 元気? 元気? 元気だよ! あなたは?) 挨拶します。私が一度お客さまのちょっと偉い人に対し、「アッサラーム・アライクム」と挨拶をすると、「お前はムスリム (イスラム教徒) か?」と訊かれ、「ノン」と答えると「じゃあアッサラーム・アライクムと言うな! (この異教徒が!)」と怒られました。括弧の中は私の心に聞こえた声です。それ以降、彼に対しては現地で使われている言葉を含め、絶対にムスリムの挨拶はしないようにしました。

また、ほかの人には私のヒゲを見て「いいヒゲだな。お前ムスリムか?」と訊かれたこともありました。ヒゲはムスリムの信仰の深さを表すようで、私をムスリムじゃないかと思ったようです。もちろんムスリムでない私は「ノン」と答えると、「じゃあ何でヒゲを伸ばしている?」と質問され、「髭剃り持ってないから」とふざけると、ちょっと気まずい雰囲気になりました。そのとき、気まずい雰囲気を察したのか、そばにいた別の現地人が「サムライスタイル」と言う助太刀を出してくれました。何が面白いのか分かりませんでしたが、その場は笑いに包まれ、私は難を逃れました。どうやら現地では映画「ラストサムライ」が人気なようで、渡辺謙や真田広之のヒゲの影響か、彼らはサムライはヒゲを伸ばしていたかと思っているようです。それ以降もヒゲを剃らなかった私は、彼らには「サムライ」と呼ばれていました。

(プラントセクター建設部 神武 寛典)



ALGERIA